SHIBUYA UNIVERSITY NETWORK

2025年度
活動報告書

分断が進む時代に、

多様な他者とともに学ぶこと。

特定非営利活動法人 シブヤ大学

APRIL 2025 — MARCH 2026

2025年度版について

前年度から続く、次の一年

変わらない理念の上に、
新しく生まれた学びを。

2024年度の活動報告書では、シブヤ大学が都市に「学びの場」をひらく理由や、参加者・ボランティアスタッフにとって、どのような場であるかをまとめました。

2025年度版では、その考え方を土台に、この一年に新しく生まれた活動や出会い、変化を中心にご紹介します。

前年度版とあわせてお読みいただくことで、シブヤ大学が大切にしてきたことと、そこから広がりつつある学びの姿を感じていただけたら幸いです。

2024年度

活動報告書

シブヤ大学が大切にする
「学びの場」の考え方

シブヤ大学とは

シブヤ大学は、2006年に設立されたNPO法人です。「まち全体がキャンパス」を合言葉に、渋谷のさまざまな場所を教室として、年齢や職業を問わず誰もが参加できる授業を無料で開催しています。

先生や授業をつくる担い手も、まちで暮らし、働く人たちです。入学試験も卒業もなく、普段なら出会わない人・もの・場所との出会いを通して、一人ひとりが自分の問いを見つける学びの場をひらいています。

2025年度を振り返って

分断が進む時代に、
多様な他者とともに学ぶこと

この一年は、いろいろな場面で、分断や排外的な思想の強まりをこれまで以上に感じた年だったように思います。同じ空間に集まり、誰かとともに学ぶことを大切にしてきたシブヤ大学にとっては、「多様な他者とともに学ぶことの価値」を改めて考え続けた一年となりました。

成果や目的を求めず、普段の肩書きや役割から離れ、自分の言葉で話し、誰かと学び合うこと。効率やスピードを追い求めるのではなく、ゆっくりと、アナログに学ぶこと。こうした学びの価値は、アルゴリズムによって自分に合った情報ばかりが届き、異なる価値観を持つ人同士が交わりにくくなっている今だからこそ、より大きくなっているのではないでしょうか。

さまざまな人が行き交う大都市・渋谷だからこそ、年齢、職業、言語、国籍などの異なる人たちが、ともに学ぶ機会をつくっていきたい。2025年度の韓国との協働プログラムやインバウンド向けのまち歩きツアーは、その一つの試みです。そして、毎月の授業一つひとつが、「普段なら出会えない人・もの・場所に出会う楽しさ」を思い出せる場でありたいと思っています。

忙しい毎日の中で、ほんの少し何かを変えてみたいと思ったときに気軽に訪れ、学びを通して、自分自身や他者、社会とのつながりを感じられる場所であること。学びのテーマや社会の状況が変わっても、この軸はこれからも変わりません。

2026年、シブヤ大学は設立20周年を迎えます。これまで関わってくださった皆さんへの感謝を胸に、これからのシブヤ大学を、皆さんと一緒につくっていけたら嬉しく思います。2025年度も、シブヤ大学に関わってくださったすべての皆さんに、心より感謝申し上げます。

シブヤ大学学長　大澤悠季

2025年度の活動ハイライト

ともにつくり、ともに考える

学びの場をつくることも、問いを受け継ぐことも。

01　学びの場を、ともにつくる

ボランティアスタッフ募集イベント

シブヤ大学の活動を一緒につくるボランティアスタッフの募集イベントを開催しました。「まちをキャンパスにする」という考え方を紹介した後、現役スタッフとの交流や、授業づくりを体験するワークショップを実施。参加者が活動の雰囲気に触れ、自分自身がどのように関わっていきたいかを考える機会となりました。イベントをきっかけに、新たなスタッフも活動に加わっています。

02　記憶を受け継ぎ、ともに考える

戦後80年特別授業「記憶と想像力のバトン」

戦後80年の節目に、聖心女子大学現代教養学部教育学科との共催で、「記憶と想像力のバトン〜戦争を知らないわたしたちが紡ぐ言葉〜」を開催しました。子どもからご年配の方まで約80名が参加。月刊『世界』編集長の堀由貴子さんと、「あなたの沖縄」代表の西由良さんを迎え、戦争を体験していない世代が過去の記憶をどう受け継ぎ、語っていくかを考えました。

2025年度の活動ハイライト

渋谷から世界へ、世界から渋谷へ

地域に深く入り、異なる文化や言葉を越えて学び合う。

03　日韓の地域を行き来し、ともに学ぶ

韓国・カンファユニバースとの協働プログラム

韓国・江華島の地域コミュニティ「カンファユニバース」と連携し、日韓の参加者がともに学び合う交流プログラムを実施しました。11月にはシブヤ大学の参加者が江華島を訪れ、自然や地域の学校、書店、農家などをめぐる2泊3日の滞在型授業を開催。3月にはメンバーを渋谷に迎え、まち歩きや食卓を囲む活動、対話のワークショップを通じて、互いの価値観に触れました。

04　海外から訪れる人に、渋谷をひらく

Airbnbと連携したオリジナルまち歩きツアー

Airbnbからの声かけを受け、「Airbnbオリジナル体験」のホストとして、海外から渋谷を訪れる人に向けたまち歩きツアーを始めました。渋谷に隠れた川の跡をたどりながら、まちの歴史や文化、人々の営みに触れる英語のツアーです。約20年にわたり、渋谷のまちをキャンパスとして学びの場をつくってきた経験を、国や言語、文化的背景の異なる人たちとの新たな出会いへひらいています。

2025年度の授業

2025年度、38の学び

自分と他者を見つめる学び

問い・対話

正解のない問いを、誰かと考える

- 「見つける学び場」を一緒につくろう！～"問い"であそぶワークショップ～
- 対話型トレーニングで"デモクラ筋"を鍛えよう!～デモクラシー・フィットネス～
- 対話が大事というけれど… ～対話のリアルと向き合う座談会～
- 「問い」と「解」について考える ～なぜパズルにハマるのでしょう？～

生きかた・働きかた

自分らしく生きるための視点を得る

- 初めてのアドラー心理学 ～人間関係が楽になる心の処方箋
- 正解のない”はたらく”について
- ひとりの大人として、誰かの“安心”になれる ～バディチームが目指す「みんなで子育て」とは～
- マイ・リトル・ブッダをつくろう～恋愛編～
- ソーシャルファームWS 【第1回】働けないってどういうこと？働くってどういうこと？
- ソーシャルファームWS 【第2回】ソーシャルファームのリアル（働く人の目線から）
- ソーシャルファームWS 【第3回】ソーシャルファームのリアル（雇う人の目線から）
- ソーシャルファームWS 【第4回】関西のソーシャルファーム実践者と話してみよう！

食・自然

食や自然から、知らなかった世界に出会う

- ラッコのように生きる～かわいらしく、たくましいラッコの世界へ～
- 届け、僕のホヤ愛 ～ホヤを通して東北に想いを馳せる～
- 「料亭三長」を五感で体感～味覚編

多様性・ウェルビーイング

違いを知り、ともに生きることを考える

- 五里霧中!?な運動会 ～見えない世界はどう見える？～
- みんなができるヨガ！ ～シニアの方・障がいのある方・体が硬い方も～
- “わたしが決める”をはぐくむ・エンパワメント ～障がいのある人の学びの現場から～
- 自分の指、大切なひとの「指」を作って、愛でよう。 指キーホルダーづくり ＆ 知ってる？エピテーゼのこと

2025年度の授業

2025年度、38の学び

まち・文化・世界と出会う学び

地域・まちづくり

いつもの風景を、別の角度から見る

- ショーウィンドウさんぽ２ ～上原から渋谷へ～
- マチアソビ開発局 ～いつもの行為を街に連れ出そう！見慣れたあの場所が遊び場に～
- 地域でつくる”遊び場”を知ろう！ ～大人のためのプレーパーク体験～
- ぐっとあっぷガヤのみなさんと歩く幡ヶ谷
- 【トライアルツアー / Trial Tour】見えない川をたどる、渋谷の物語 / Trace Shibuya’s Stories Along a Hidden River
- あったらいいな、こんな図書館 ～図書館の新しい使い方を考える～

文化・表現

表現に触れて、世界の見え方を広げる

- 「今夜は、無礼講。2025」～お座敷あそびは奥が深い！
- 「今夜は、無礼講。2026」～お座敷あそびは奥が深い！
- 声優体験してみよう！ ～声で映像にいのちをふきこむ～
- 劇場の裏側をのぞいてみよう！ ～恵比寿・エコー劇場バックステージツアー～

歴史・社会

過去を知り、いまを考える

- 【戦後80年特別授業】記憶と想像力のバトン ～戦争を知らないわたしたちが紡ぐ言葉～
- 語り継ぐ力 ― 被爆体験と伝承の対話ワークショップ
- いまさらですが「KY（ケーワイ）」のすすめ ～新聞が空気を読まない理由とは～

世界と出会う

言葉や文化を越えて、地域と地域をつなぐ

- 韓国・江華島で自分と世界を再発見する旅 ～ひとときの島ーチャムシソム（잠시섬）で過ごす3日間～
- 超参加型読書会アクティブ・ブック・ダイアローグで読む『〈弱さ〉から読み解く韓国現代文学』
- ペルーの手仕事と森の恵の魅力を深掘り！ 元JICA隊員たちとの南米カルチャートーク！
- 都市で立ち止まる3日間 ～日韓共同チャムシソム in 渋谷～

未来を想像する

新しい技術から、これからの日常を考える

- 【中・高・大学生向け】2050年の日常を想像しよう ～離れていても触れる！？"触覚"を持つロボット体験ワークショップ～
- 2050年の日常を想像しよう ～離れていても触れる！？"触覚"を持つロボット体験ワークショップ～

2025年度の活動ハイライト

連携から生まれた学び

異なる専門性を、誰もが参加できる学びの場へ。

東京都産業労働局

誰もが働ける社会をつくる

ソーシャルファームを知って、考えて、動きたくなるワークショップ

協働内容

1. 働けないってどういうこと？働くってどういうこと？
2. 働く人の目線から見る、ソーシャルファームのリアル
3. 雇う人の目線から見る、ソーシャルファームのリアル
4. 関西の実践者と話し、次の一歩を考える

生まれた学び

働く人、雇う人、実践者。それぞれの視点に触れ、「働きづらさ」を個人だけの問題にせず、仕事や職場、社会の側も変わる必要があることを考えました。

慶應義塾大学 CPSセンター

2050年の日常を想像しよう

離れていても触れる！？“触覚”を持つロボット体験ワークショップ

協働内容

触覚を伝えるロボットを実際に操作。大学の先端研究を、子どもから大人までが体験し、対話できる授業としてひらきました。

生まれた学び

技術を知るだけでなく、その技術がある未来の暮らしや、人と人との関係を想像する学びが生まれました。

2025年度の活動基盤

会計・寄付報告

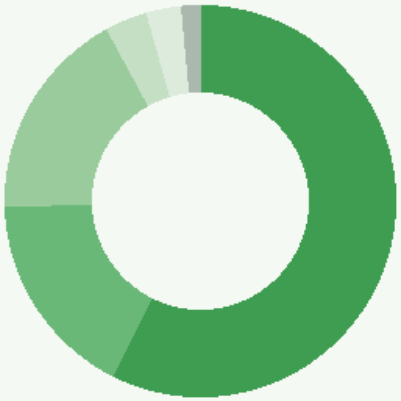
活動を支えたお金の流れをご報告します。

2025年度 会計報告

単位：千円

経常収益	経常費用	差額
14,328 千円	15,382 千円	▲1,054

経常収益の内訳



行政	57.4%
企業	17.1%
その他	17.6%
個人サポーター	3.5%
法人サポーター	2.9%
授業寄付金	1.5%

皆さまからの寄付

1,134,701 円

ご支援いただき、ありがとうございました。

寄付収入の内訳

法人サポーター会費	500,000円
個人サポーター会費	414,635円
授業後募金	220,066円

法人サポーター

パーソルホールディングス株式会社 様

シブヤ大学の活動を支えてくださった皆さまに、
心より御礼申し上げます。

SHIBUYA UNIVERSITY 20TH ANNIVERSARY

20周年に向けて

これからのシブヤ大学を、一緒につくりませんか。

2006 → 2026

20 YEARS

2006年9月に開校したシブヤ大学は、2026年に20周年を迎えます。まちをキャンパスに、誰もが先生にも学生にもなれる学びの場を、たくさんの人とともにつくってきました。20周年は、これまでを祝うだけでなく、これからの時代に必要な学びの場を、あらためて考える節目です。

その最初の機会として、20周年特別授業「『わかりあえない』から始めよう。〜分断の時代に、会話を続けるということ〜」を開催します。「わかりあえなさ」を前提に、それでも他者とともにいるために、私たちをは何を大切にできるのか。哲学と表現の実践を手がかりに、参加者の皆さんと考えます。

あなたらしい関わり方を、見つけてください。

01
参加する
学生として、授業に参加する

02
つくる
ボランティアスタッフとして関わる

03
支える
個人・法人サポーターになる

04
協働する
企業・自治体として企画をつくる

詳しくは、シブヤ大学ウェブサイトへ

https://www.shibuya-univ.net/